

## 平成17年度 決算の概要

1. 一般会計の決算額は、歳入 17,715,611 千円（前年度比 13.0%の減）、歳出 17,303,069 千円（前年度比 13.4%の減）、差引形式収支で 412,542 千円となり、翌年度に繰り越すべき財源 69,093 千円を除いた実質収支では、343,449 千円の黒字（対前年度比 2.7%の増）となった。

特別会計では、歳入 10,768,320 千円、歳出 10,786,868 千円、差引△18,548 千円となった。各特別会計の歳入歳出とも増となり、全体で歳入 4.9%、歳出 5.0%の増となった。

また、企業会計全体では、収益的収支で収入 6,247,993 千円、支出 6,493,261 千円となり、差引 245,268 千円の損失となった。

### 2. 特徴点（一般会計）

- (1) 平成 17 年度の我が国経済は、輸出がアジアを中心に持ち直し、生産についても情報化関連分野の在庫調整が一巡するなど改善の動きがみられ、景気は踊り場を脱却し、緩やかな回復を続けている。
- (2) 市税のうち市民税は、一部の法人の業績回復により 4.5%の増、固定資産税は、1.1%の増となるなど、市税全体では 2.1%の増となった。
- (3) 投資的経費は、まちづくり交付金事業（市民会館大規模改修、JR 加古川線 4 駅周辺整備事業、黍田下来住線整備事業、桜つつみ回廊事業など）、八ヶ池周辺整備事業、コミュニティセンター下東条改修事業、防災備蓄倉庫整備事業、一般道路整備事業などで、総額 1,654,061 千円となった。

補助事業は、 926,232 千円 （対前年度比 189.4%の増）

単独事業は、 727,829 千円 （対前年度比 76.7%の減）

- (4) 経常収支比率は、三位一体の改革による地方交付税及び臨時財政対策債の大幅な減により、経常一般財源の総額が減となるなか、物件費や繰出金の増などにより経常経費に充当される一般財源は増となり、前年度より 2.9%上昇し、90.8%（前年度 87.9%）となった。公債費比率は、16.7%（前年度 16.2%）、起債制限比率は 9.8%（前年度 9.4%）、地方債協議制度に用いる新たな財政指標である実質公債費比率は 16.7%となった。

3. 国民健康保険特別会計は、歳入で 4,218,482 千円（対前年度 250,319 千円 6.3%増）、歳出で 4,206,869 千円（対前年度 276,689 千円 7.0%増）となった。

医療費の増加に伴う保険給付費の増加（対前年度 154,326 千円 5.8%増）が歳出増加の主な要因である。

4. 老人保健特別会計は、歳入で 4,189,174 千円（対前年度 69,932 千円 1.7%増）、歳出で 4,220,770 千円（対前年度 53,136 千円 1.3%増）となった。

医療給付費の公費負担割合の増により、医療諸費が 4,172,334 千円で 0.4%の増となった。

なお、歳入歳出差引不足額は、18 年度予算で繰上充用するものとし、その財源は国庫支出金等の追加負担を充てるものである。

5. 介護保険特別会計は、歳入で 2,360,664 千円（対前年度 181,363 千円 8.3%増）、歳出で 2,359,229 千円（対前年度 180,937 千円 8.3%増）となった。

要支援・要介護認定者が 17 年度末で 1,504 人（16 年度末 1,416 人）となり、保険給付費が 2,248,461 千円で 7.8%の増となった。

#### 6. 企業会計

- ・都市開発事業会計では、収益的収支で 533 千円の黒字。
- ・病院事業会計では、収益的収支で 47,490 千円の赤字。

資本的支出では、病棟の風呂・トイレ等の改修工事、医療機器の整備充実を図った。

- ・水道事業会計では、収益的収支で 139,988 千円の黒字。

資本的支出では、老朽配水管布設替工事等を実施した。

- ・下水道事業会計では、収益的収支で 338,299 千円の赤字。

資本的支出では、浄谷町他下水道整備、天神町実施設計等を実施した。